



オンラインではできないこと

校長 蒲谷 猛

『手のひらを太陽に』

作詞： やなせたかし

作曲： いずみたく

ぼくらはみんな 生きている
生きているから 歌うんだ
ぼくらはみんな 生きている
生きているから かなしいんだ
手のひらを太陽にすかしてみれば
まっかに流れる ぼくの血潮
ミミズだって オケラだって
アメンボだって
みんな みんな生きているんだ
友だちなんだ

(2番略)

ぼくらはみんな 生きている
生きているから おどるんだ
ぼくらはみんな 生きている
生きているから 愛するんだ
手のひらを太陽にすかしてみれば
まっかに流れる ぼくの血潮
スズメだって イナゴだって
カゲロウだって
みんな みんな生きているんだ
友だちなんだ



ある高校の吹奏楽部がオンラインで部活をおこなっているというニュースがありましたが、感染拡大防止のための「STAY HOME」が続くなか、オンライン飲み会やリモートセッションなど、様々に工夫しながら人々が「つながり」を求める取組がTVやネットでたくさん紹介されています。いかに人間にとって、人との豊かな関わり、つながりが大切なものなのかがよくわかります。

5月号でも話題にしたように、自分もオンライン会議をするようになりました。実際にオンラインでの会話を体験してみると、話合いの合間のちょっとした雑談といったリフレッシュができないことや、相手の思いとか今の気持ちなど、人の奥にあるものをくみ取ることができないことで、オンラインの限界を感じましたし、やはり「相まみえる」に勝るものはないとも思いました。

話は変わりますが、我が家の長男も次男も大学の講義がオンラインやオンデマンドになり、自宅勉強しています。昨年度大学生活を経験している長男はまだいいのですが、今年入学したばかりの次男は、受講する講義を選択するにも、オリエンテーションやガイダンスを受けることもできず、新たな出会いもないので友だちや先輩と情報交換をすることもできず、とても苦労していました。やはり、学びは直接的にも間接的にも「個」では完結させることはできず、映像が提供されれば学びが補償されるということにはならないようです。ましてや、「講義」ならまだしも、大学の神髄である「ゼミ」をオンラインでおこなうことは相当厳しいだろうと想像もしました。深慮の交流が必須だからです。

ようやく3か月に及んだ休業が終わり、学校が再開します。新型コロナウイルスの感染拡大防止に努めてきた時間は、あらためて「学校の存在意義は、人との関わりに学ぶことにある」と確信させてくれました。感染リスクを低減することから、身体的距離を確保したり、感染リスクの高い活動は実施できなかったりするなど、「人との関わり」にも一定の制限がかかり続けるでしょうが、「できるだけ関わらないようにする」のではなく、感染防止に配慮しながら様々に工夫して「積極的に関わられるようにする」ことを大切にしていきたいと考えています。何をやるにも、やめるにも、一つ一つ手探りです。全職員で知恵を絞って参ります。子どもの人との豊かな関わりは、保護者と保護者の関わり、保護者と地域の関わり、学校と地域・保護者とのかわりによって支えられています。学校再開にあたり、あらためてご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

【学校再開における取組について】

『明日も来たくなる学校』のさらなる実現のために

1 段階的な教育活動の実施

第一期 分散登校による少人数での半日程度の授業
(学級をAとBに分けて授業をします。)

A：出席番号 1～17 (2・5年は1～16)

B：出席番号 18～38 (2・5年は17～38)

① 6月 1日 (月) から5日 (金)

A：8：00～8：10 登校 10：10 下校予定

B：10：30～10：40 登校 12：40 下校予定

② 6月 8日 (月) から12日 (金)

A：10：30～10：40 登校 12：40 下校予定

B：8：00～8：10 登校 10：10 下校予定

第二期 6月 15日 (月) から30日 (火)

午前授業、給食なし

第三期 7月 1日 (水) から

通常授業、給食あり

※感染状況等により、期間が変更になる可能性があります。その場合は、改めてお知らせいたします。

2 新型コロナウイルス感染症の感染防止対策

○感染症対策の3つの取組を行います。

①感染源を絶つ取組

・発熱等のかぜの症状や体調不良がある場合には、自宅での休養を徹底します。

・登校時、家庭で記入した健康観察票を毎日チェックし、児童の健康状態を把握します。

・登校後に、発熱等のかぜの症状や体調不良がみられる場合は、児童を別室に留め置き、帰宅措置を講じます。

②感染経路を絶つ取組

・外から教室に入るときやトイレの後、給食の前後など、こまめに手を洗うよう指導します。また、タオルやハンカチ等は個人持ちとし、共用はしないよう指導します。

・多くの児童が手を触れる箇所を、児童下校後、消毒します。(教室の机、いす、ドアの取っ手、スイッチ、手すり、トイレを含む水道の蛇口等)

③抵抗力を高める取組

・免疫力を高めるため、「十分な睡眠」、「適度な運動」及び「バランスの取れた食事」を心がけるよう指導します。

○「3つの密」を徹底的に避けるために、身体的距離の確保をします。

・可能な限り、室内を換気しながら授業をします。

・近距離での会話を避け、児童の距離が1～2m程度保てるよう、座席を配置します。

・特別教室は互いが向かい合わないよう座ります。

・手洗い場、トイレ等に待機線を引き、水回りにおける児童同士の距離が保てるようにします。

・マスク着用を徹底します。教職員は原則マスクを着用します。マスクを着用して運動する際は、熱中症等に注意します。

○新型コロナウイルス感染症の予防に関する保健教育を実施します。(児童への指導内容は保健日より6月号に記載してあります。)

3 児童指導の充実

○学校カウンセラーによる研修内容を活用し、ていねいな児童観察・積極的対話を重ねます。(5月29日に全

職員が研修を行いました。)

○一人ひとりの困り感に寄り添った支援(アンケート等の実施)を行います。

○「子どもの社会的スキル横浜プログラム」(子どもたちのケア・人との関わりづくり)を活用し、あたたかい学級風土づくりを進めます。

○「だれもが安心して豊かに」生活できる学校壤土の育成をさらに目指します。(いじめの早期発見・早期解決)

4 児童の学習

○全学年でスタートカリキュラムを実施します。

・楽しみながら、きまりやルールを理解する指導を行います。

・「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を積極的に実施します。

○3密の重なりを十分に避けつつも、「人との豊かな関わり」を大切に学習を行います。

・ともに学習する楽しさを味わえる学習活動を工夫します。

・話し合う活動を大切にします。

○未履修内容の取り扱いを考慮したうえで教育課程の再編成を行い、効果的・効率的な指導を工夫します。

児童支援専任コーナー

この度の緊急事態宣言下、新型コロナウイルスの影響を受け、社会の状況が日ごとに変化する毎日が続いています。情報が溢れ、「1週間後にどうなるかわからない」「予定が突然変更になる」という中、これまでの日常と違う対応にご協力をいただき、子どもたちを支え続けてくださる皆様に、心より敬意を表します。

さて、小学校での学校生活が再開しました。お子様の様子はいかがでしょうか。環境が変わり、緊張しながらも、学校生活に早く慣れようと頑張っているのではないのでしょうか。お子様はもちろん、保護者の皆様にも毎日を安心して過ごしていただくためにも、何か心配なことがありましたら、お気軽にご相談ください。

◎子どものストレス反応における対応のポイント

目に見えない感染症の脅威によって、保護者の皆様は当然のこと、子どもの心と体にも大きなストレスがかかっています。ストレスがかかると、子どもの心や体はそれをなんとかしようとして反応します。反応が出ることはとても自然なことです。5月号では、「どんな反応が」「どんな風にでてくるのか」などを、紹介しました。今月はおもにその対応のポイントについてご紹介します。

○話す? 話さない?

お子様が話そうとしている時は、しっかり聞いてあげましょう。何度も同じ話を繰り返すかもしれませんが、

話すことで頭の中が整理されます。話したがない時には無理に聞き出そうとせず、「話したくなったらいつでも聞くからね。」と伝えてあげてください。

○強がりや反抗も、ストレスの反応のひとつです

まるで何事もなかったように普通にふるまったり、逆にはしゃぎすぎたりすることも反応のひとつです。本当は不安でいっぱいな場合があります。一時的に周りの人を怒らせたり、手こずらせたりするかもしれませんが、

しばらくすると、少しずつ落ち着いてきます。

○体調が悪いみたい。大丈夫？

体の症状を訴えている時は、手当をしてあげましょう。治療のために、病院に連れていくことも大切です。苦痛を和らげるとともに、手当をしてもらうことで「守られている」という安心感をお子様にご与えます。

○今のところ元気だから・・・

反応の強さやあらわれ方、反応の時期は人によって異なります。今現在心配な様子がない場合でも、長期的に見守る必要があります。

【チャレンジタイム・ルームについて】

昨年度までも希望者に対し、「特別支援教室」として週に1時間程度取り出し学習をしていました。これは、子どもが学習に対し前向きに取り組めるようになったり、自信を少しでももてたりできるよう、個別の学習を設定するものです。今年度は、視聴覚機械室の隣を整理整頓し、「チャレンジルーム」として新規設置し、放送室・相談室と合わせて活用します。また、「特別支援教室」での学習を「チャレンジタイム」とし、担当者2名（鈴木美沙・田中良子）で7月から本格的にすすめていく予定です。チャレンジタイムについての相談窓口は特別支援コーディネーター2名（鍋倉・徳永）となります。

【提出物について】

学校再開初日に配付した次のものは、**今年度より配付の「個人用連絡袋」に入れて、6月5日（金）までにご提出ください。**（1年生は配付済です。）なお、「個人用連絡袋」は原小学校在学中、全ての学年で使用します。

- ・児童調査票
- ・引き渡しカード
- ・メール配信申込書（未提出の方のみ）
- ・保健調査票
- ・眼科保健調査票
- ・色覚検査希望表（4年のみ）
- ・歯と口腔問診表（6年のみ）

【第一期・第二期 欠席連絡等について】

欠席をされる場合は、8:00までに、学校メールアドレスに連絡してください。その際、学年、組、欠席するお子さんの名前、欠席の主な理由の記入をお願いします。8:00を過ぎた場合は、電話での連絡をお願いします。感染症感染拡大防止の観点から、連絡帳等のご連絡でなく、**必ずメール（電話）でご連絡ください。**

✉ ky-ye-hara@city.yokohama.jp

☎ 045-362-2020

また、欠席された場合の課題やお便り等は、同様の理由で、可能な限りの保護者の方の来校、受け取りをお願いいたします。



原小メールアドレス
QRコード

【6月の行事予定】

日	曜	行事
1	月	朝会（放送） 第一期開始
2	火	
3	水	
4	木	学校カウンセラー来校（全日）
5	金	
6	土	
7	日	
8	月	朝会（放送）
9	火	
10	水	
11	木	
12	金	学校カウンセラー来校（全日） 第一期終了
13	土	
14	日	
15	月	朝会（放送） 第二期開始
16	火	
17	水	計測（6年）
18	木	計測（5年）
19	金	計測（4年）学校カウンセラー来校（全日）
20	土	
21	日	
22	月	朝会（放送）計測（3年）
23	火	計測（2年）
24	水	計測（1年）
25	木	計測・聴力検査（7組）
26	金	聴力検査（5年）学校カウンセラー来校（全）
27	土	
28	日	
29	月	聴力検査（4年）
30	火	聴力検査（3年） 第二期終了

【今後の予定について】

現時点で延期または中止が決定している主な行事は、次の通りです。

○延期

- ・授業参観・懇談会
- ・家庭訪問（7月末の実施を検討中）
- ・3校合同引き取り訓練
- ・原小オリンピック（9月19日に延期）
- ・1～3年遠足

●中止

- ・新体力テスト
- ・区水泳記録会
- ・市小学校体育大会
- ・個別級宿泊体験学習

なお、長期休業期間（夏季・冬季）は、次の通りとする方向で検討を行っています。

夏季 8月1日から8月16日まで
冬季 12月27日から1月5日まで

水泳学習や7月以降の教育活動の実施等については、改めてお知らせいたします。

【令和2年度 学校配当予算執行予定】

今年度、本校に配当されました令和2年度学校予算をもとに計画した、予算執行予定をお知らせいたします。
 本校では、公正且つ適正な予算執行を心がけております。毎年5～6月に予算委員会を開催し、子どもたちへのよりよい教育の実現に向けて検討を行い、今年度の予算計画を立てます。
 なお、公費執行状況につきましては、数年ごとに横浜市教育委員会の調査を受けております。

令和2年度 学校配当予算執行計画書 横浜市立原小学校 (単位:円)

経費	予算費目	配当額	主な執行内容(予定)
学校運営費	報償費	252,000	体験学習ボランティア謝礼、学習協力者謝礼など
	消耗品費	7,831,200	用紙代、文具類、各教材消耗、保健消耗、給食消耗品など
	食糧費	50,000	来賓用お茶代など
	印刷製本費	143,000	校名入り封筒印刷代
	修繕料	303,000	教材備品修繕代、給食備品修繕代、事務機器修繕代など
	通信運搬費	119,000	切手代、各行事児童交通費など
	手数料	100,000	児童図書装備代、ピアノ調律代など
	委託料	85,000	大型ごみ処理代、プール清掃委託料など
	使用料及び賃借料	528,600	体験学習バス代、各行事の教職員入場料など
	学用器具費	2,577,000	教材備品、給食備品、事務機器など高額なもの
	図書費	664,000	児童用図書購入代
	負担金等	24,000	学警連分担金
	小破修繕料	730,000	学校設備全般の修繕費
	校地小破修繕	64,500	校庭関係の修繕費
計	13,471,300		
学校管理費	管理燃料費	229,000	管理室プロパンガス代、草刈機用ガソリン代、灯油代など
	給食調理燃料費	1,760,000	給食室プロパンガス代
	計	1,989,000	
教職員等旅費		1,062,000	教職員等の出張旅費、宿泊学習引率企画手数料など
合計		16,522,300	